

# 令和元年度 第4回 大分市総合教育会議

日 時 : 令和元年 11 月 6 日 (水)

10 時 00 分～11 時 00 分

場 所 : 大分市役所 議会棟 3 階 第 5 委員会室

## 次 第

### 1. 開 会

### 2. 議 事

(1) 次期大分市教育大綱の中間報告について

(2) グローバル人材の育成、日本語指導等支援について

### 3. 閉 会

## 外部検討委員会での主な意見

※( )内は意見に対する素案該当箇所

**●目標1「次代を担う人材育成」関連**

- ・選挙権年齢が18歳に引き下げられ、今後成人年齢も引き下げられることを考慮すると、主権者として社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことが出来る児童生徒を育てていくという観点が必要である。(素案に記載無し)
- ・大きな社会問題となっているいじめ防止の観点からも、社会性や善悪を判断する力、思いやりなどをはぐくむための道德教育が重要である。(素案P6目標1：2点目)

**●目標2「学びのセーフティネットの構築」関連**

- ・不登校児童生徒への支援は、児童生徒の社会的自立を目指すことが重要であるため、一人一人の状況に応じた支援が必要である。(素案P7目標2：1点目)
- ・日本語指導が必要な児童生徒が近年増加傾向にある中、時代のニーズにあった対応を検討していく必要がある。(素案P7目標2：4点目)

**●目標3「質の高い学びを実現する教育環境の整備」関連**

- ・少子高齢化が進む中、通学路等における子どもたちの安全・見守りを担う人材の確保が重要である。(素案P8目標3：2点目)
- ・学校教育に対するニーズや教育現場が抱えるさまざまな課題が複雑化・多様化し、学校に求められる役割や、教職員の多忙さが増しているため、豊かな教育環境を創造するためにも働き方改革の取組が重要である。(素案P8目標3：4点目)

**●目標4「生涯学習支援体制や家庭教育支援の充実」関連**

- ・核家族や地域社会とのつながりの希薄化が進む中、家庭教育の担い手である保護者の学びを支援するため、学習機会の充実や地域の様々な行事等に参加してもらう取組が必要である。(素案P8目標4：3点目)

**●目標5「地域における子どもの健全育成の充実」関連**

- ・自然体験や社会体験などの体験活動の機会を充実させるとともに、学校、家庭、地域がそれぞれの違いや特徴を生かしつつ一体となって子どもたちを育成するための環境作りが必要である。(素案P9目標5：1点目)

**●目標6「文化・芸術を生かしたまちづくり」関連**

- ・アートマネジメントの発想に基づいて、文化・芸術そのものの価値を向上させるだけではなく、幅広い関連分野にその価値を広げていくことによって、社会を活性化するという視点が重要である。(素案P9目標6：2点目)

**●目標7「スポーツを通じた地域活性化」関連**

- ・広く市民が参加できる各種スポーツ事業の充実や生涯にわたってスポーツに親しむ基礎を培うため、幼少期からスポーツに親しみ、楽しむことが出来る環境作りが必要である。(素案P9目標7：1点目)

**●目標8「人権尊重を基盤とした教育活動の充実」関連**

- ・人権教育を子どもの頃から受けているが、人権問題が多様化している状況もあり、あらゆる差別の解消に至っていないため、差別の解消に向けて多様な学習機会の提供や市民の人権意識の高揚が必要である。(素案P10目標8：1,2点目)

## 大分市教育大綱修正案（新旧対照表）

旧	新
<p>＜基本方針 1＞「生きる力をはぐくむ学校教育の充実」 目標 1：次代を担う人材育成</p> <p>○一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア教育、適切な意思決定や消費行動に結びつけることができる資質・能力を育成する消費者教育、持続可能な社会の構築を目指した環境教育の推進に努めます。</p> <p>＜基本方針 5＞「スポーツの振興」 目標 7：スポーツを通じた地域活性化</p> <p>○本市をホームタウンとするプロスポーツチームを応援する気運を高め、地域の活性化を図ります。また、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会や 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、各種競技の普及・拡大を図るとともに、スポーツへの興味・関心を喚起し、スポーツを通じた健康増進の意識を醸成します。</p>	<p>＜基本方針 1＞「生きる力をはぐくむ学校教育の充実」 目標 1：次代を担う人材育成</p> <p>○一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア教育、<u>社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を養う主権者教育</u>、適切な意思決定や消費行動に結びつけることができる資質・能力を育成する消費者教育、持続可能な社会の構築を目指した環境教育の推進に努めます。</p> <p>＜基本方針 5＞ 「スポーツの振興」 目標 7：スポーツを通じた地域活性化</p> <p>○本市をホームタウンとするプロスポーツチームを応援する気運を高め、地域の活性化を図ります。また、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会や<u>東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会</u>を契機として、各種競技の普及・拡大を図るとともに、スポーツへの興味・関心を喚起し、スポーツを通じた健康増進の意識を醸成します。</p>

## 1 本市英語教育推進のイメージ

○「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（H25.12.13文部科学省）

目的：初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。

**小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、児童生徒の英語力を向上**

### 本市小中学校における英語教育の充実

目的：令和2年度からの小学校高学年への英語科の導入及び小学校中学年における外国語活動の全面実施に向けて、英語教育に係る指導方法の更なる充実を図るとともに、小中学校間の円滑な接続を図ることにより、本市英語教育の充実に資する。

### 大分市教育委員会の取組

#### (1) 指導体制の充実

外国語指導助手招聘事業及び生き生き学習サポート事業の活用により、国際化に対応した英語教育の充実に向けて、学級担任等の指導をサポートするとともに生きた英語の提供、更には、児童生徒のコミュニケーションへの意欲や学習に対する意欲の向上を図る。

【外国語指導助手の任用状況、活用時数等】○各学校における活用実績及び見込時数

- ・H5年度に1名配置以降、段階的に外国語指導助手の配置を増員
- ・幼稚園については、希望する園に派遣（H30 活用園数18園のべ40日）

年度		H28	H29	H30	R元	R2
任用人数（人）		16	21	26	31	31
小学校	3, 4年（単位時間）		6.7	10.5	13	13
	5, 6年（単位時間）	12.2	14.4	21.1	30	35
中学校（単位時間）		17.4	14.7	17.2	22	22

※R元、R2については、見込

#### (2) 教職員研修等

H28年度より4年計画で英語教育に係る4つの研修を実施し、授業力向上を図る。なお、令和2年度からは、新たな研修計画の下、実施する。

- ・中学校英語教育応用研修
- ・中学校英語教育還流研修※
- ・小学校英語教育基礎研修
- ・小学校英語教育還流研修※

※還流研修

本市の代表として中央研修に参加した教員が、本市教育センターの主催する研修の講師として中央研修で学んだ研修内容を各学校から参加した教員に還流する研修

#### (3) 指導用教材の開発等

令和2年度から全面実施される小学校新学習指導要領における英語教育について、理解しておくべきこと、授業を行う際の指導上の留意点等をまとめた冊子「小学校英語教育推進ハンドブック」及び学力向上支援教員の作成による小学校第3～6学年用教材「Let's Try!1」、「Let's Try!2」、「We Can!1」、「We Can!2」それぞれの各ユニットの「共通指導案例」を配布し、各学校における外国語教育の充実を図る。

#### (4) 巡回学校訪問指導等

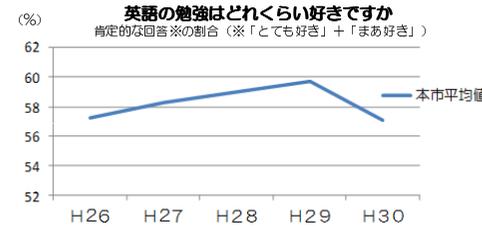
平成28年度から教科指導マイスターを本市全中学校及び義務教育学校に派遣するとともに、平成30年度から英語教育推進室の指導主事等と学力向上支援教員とが連携して本市全小学校及び義務教育学校の第3学年から、第6学年に対象とした学校巡回訪問を実施し、英語教育に係る指導方法等の更なる充実を図る。

## 2 英語教育推進による効果について

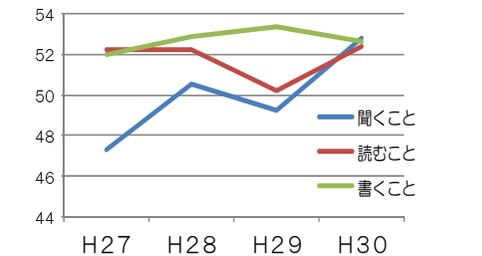
○児童生徒の英語教育への関心、意欲とともに、コミュニケーションを図る能力が向上している。

- ・大分県学力定着状況調査の総合質問紙調査では、「英語の勉強はどれくらい好きですか」、「英語の授業はどれくらい分かっていますか」の質問において、肯定的な回答の割合が上昇している。（図1）
- ・平成30年度大分県学力定着状況調査における中学校2年生や平成30年度大分市標準学力調査における中学校1年生の「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の各偏差値は50を上回っている。（図2、3）

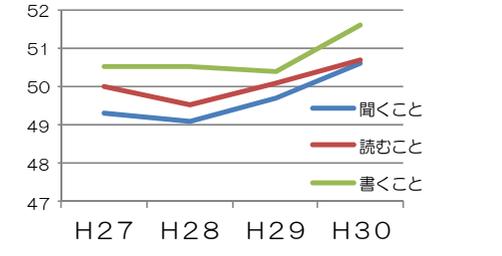
＜図1＞ 中学校第2学年大分県学力定着状況調査総合質問紙「i-Check」



＜図2＞ 大分市標準学力調査結果経年比較（中1）



＜図3＞ 大分県学力定着状況調査結果経年比較（中2）



◎今後は、ALTをネイティブスピーカーとして効果的に活用しながら、技能統合を意識した指導の充実が求められる。

## 3 立命館アジア太平洋大学（APU）との連携について

○児童生徒のコミュニケーション能力の育成に係る連携

#### ■キャンパス見学を活用した交流活動

- ・キャンパス見学の際に、APUの学生と各学校が計画した交流活動を実施する。

（活用小学校事例）・碩田学園第5学年児童が、見学遠足の際に「いごコミュニケーション科」の授業の一環としてAPUキャンパスを訪問し、留学生と英語によるコミュニケーション活動を実施している。（H29～）

- ・下郡小学校、判田小学校、滝尾小学校の第5学年が、見学遠足の見学場所として訪問し、英語による交流活動を実施した。

#### ■地域交流プログラムを活用した交流活動

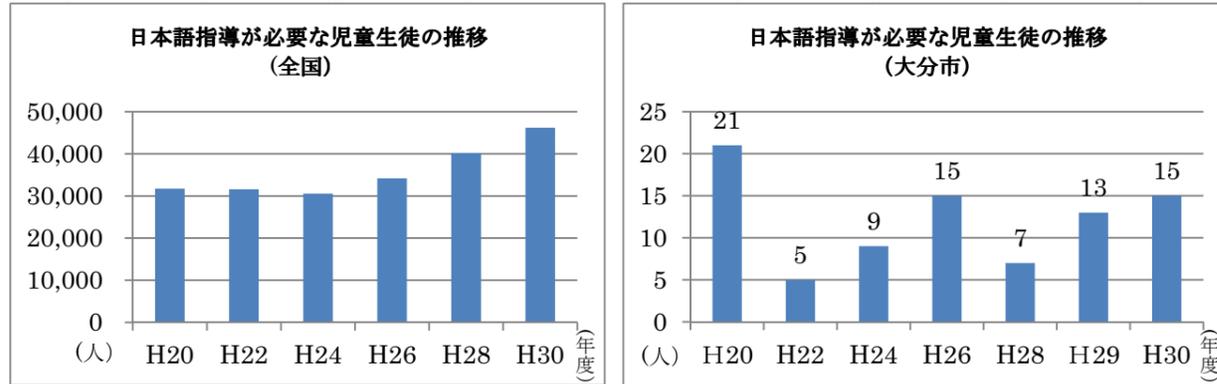
- ・APUの学生との交流機会を提供するプログラム。地域貢献、相互交流による学生の日本文化とのふれあい、日本理解の促進の場を目的としている。（相互交流内容） ・民族舞踏の披露等の自国の文化紹介、田植え等の日本の文化体験等

○教員の指導力向上に係る連携等（案）

- ・文化やスポーツ交流、社会科地理的分野、キャリア教育などの学習活動に係る講師としての活用を検討する。
- ・小学校英語教育担当教員、中学校英語科教員の指導力向上を目指し、大学との交流等について協議する。

## 1 日本語指導が必要な児童生徒の推移

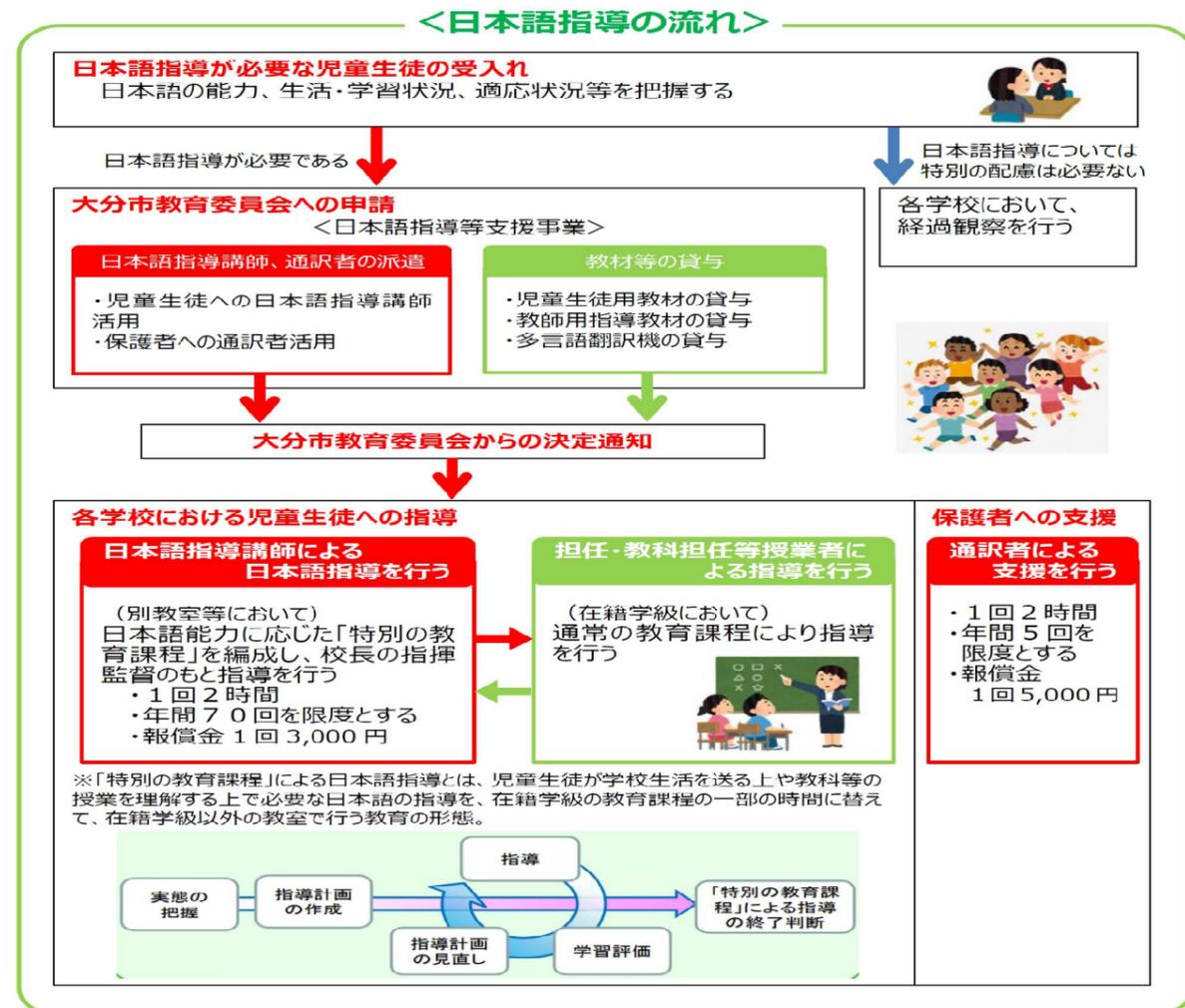
(文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況調査」(隔年実施)より)



※H29、30年度は本市における日本語指導の活用状況より。

## 2 令和元年度の日本語指導等支援事業について

### 日本語指導等支援事業について



### 令和元年10月21日現在の活用者

#### ＜令和元年度外国籍で日本語指導が必要な児童生徒＞

決定No.	学校名	区分	学年	国籍	母語
1	敷戸小	児童	6	中国	内モンゴル語
2	敷戸小	児童	4	中国	内モンゴル語
3	敷戸小	児童	2	中国	内モンゴル語
4	野津原小	児童	1	ネパール	ネパール語
5	八幡小	児童	1	キルギス共和国	キルギス語
6	日岡小	児童	1	カメルーン	英語
7	荏隈小	児童	1	中国	中国語
8	大在西小	児童	1	フィリピン	フィリピン語(英語)
9	東植田小	児童	6	中国	中国語
10	王子中	生徒	2	フィリピン	タガログ語
11	坂ノ市中	生徒	2	中国	中国語

#### ＜令和元年度日本国籍で日本語指導が必要な児童生徒＞

決定No.	学校名	区分	学年	国籍	母語
1	下郡小	児童	4	日本	英語・日本語・タガログ語
2	西の台小	児童	4	日本	日本語
3	高田小	児童	4	日本	日本語・中国語
4	東大分小	児童	6	日本	フィリピン
5	大道小	児童	1	日本	英語
6	東陽中	生徒	2	日本	中国語

#### ＜令和元年度本市支援事業を活用した保護者＞

決定No.	学校名	区分	学年	国籍	母語
1	東大分小	保護者		フィリピン	ビサイヤ語(タガログ語)
2	荏隈小	保護者		中国	中国語
3	坂ノ市中	保護者		中国	中国語

### 成果と課題

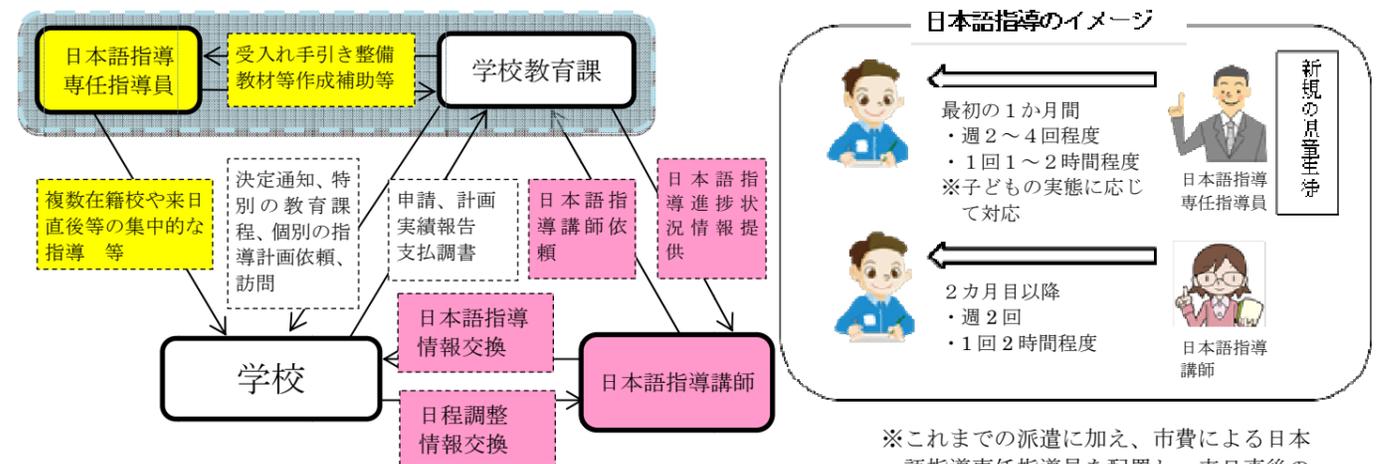
成果…日本語能力が上昇した。他の児童生徒とコミュニケーションが円滑にできるようになった。  
課題…日本語指導講師が複数校を担当しているため、日程があわず必要とする指導・支援が受けられない。特に転入直後は支援の要望が高いが講師の予定により対応できない場合があった。

### 多言語翻訳機の貸与について

令和元年10月より、日本語指導が必要な児童生徒及び保護者と教職員との日常的な意思疎通や情報伝達を行うことを目的とした多言語翻訳機(ポケットク)を貸与している。

## 3 令和2年度の日本語指導等支援事業について(案)

今後も増加が予想される日本語指導が必要な児童生徒に、これまでの派遣に加え、適切な指導や支援をするため、「日本語指導専任指導員」を2名配置する。



### 日本語指導専任指導員の業務

＜日本語初期指導(来日間もない子どもへの支援)＞

- ・市内を2地域に分け、指導や支援が必要な児童生徒が複数在籍する地域内の学校を拠点校とし、勤務する。
- ・来日後等の児童生徒が在籍する学校へ出向き、集中的な指導や支援を行う。等

## 1. 目的

市内の中学校に通う生徒が、米国の名門大学であるハーバード大学生から、大学生活や将来の夢などの話を聞き、簡単な英語ワークショップを行うなどの交流を通して、世界への視野が広がり、世界へ目を向けるきっかけとなることを目的とする。

## 2. ハーバード大学生との交流会について

- ◆ **対象生徒**：以下の条件を満たす者
  - ・市内の中学校（義務教育学校後期課程を含む）に通う生徒
  - ・事前講座に参加できる生徒
- ◆ **募集人数**：120名：応募者数は172名  
※当日は台風8号の影響により、96名が交流会に参加
- ◆ **内 容**：（交流会）  
ハーバード大学生の指導による英語ワークショップ  
自己紹介、作文、スピーチ、プレゼンテーション等  
※講師はハーバード大学生10名、スタンフォード大学生1名
- ◆ **日 時**：令和元年8月6日（火）午後3時～5時30分
- ◆ **場 所**：大分市平和市民公園能楽堂
- ◆ **主 催**：大分市国際都市交流親善会議
- ◆ **共 催**：一般社団法人Summer in Japan
- ◆ **その他**：
  - ・当日は、無料の観覧席を約300席設置した
  - ・APUよさこいサークルによるオープニングアクトを実施した



## 3. 事前講座概要

- ◆ **日 時**：令和元年7月17日（水）午後6時～7時15分
- ◆ **会 場**：J:COMホルトホール大分 302・303会議室
- ◆ **内 容**：交流会参加のための基礎英語、英語スピーチに関する学習  
【講師】**廣津留 真理氏**※  
一般社団法人Summer in Japan 代表理事

### ※廣津留 真理氏

一般社団法人Summer in JAPANの代表理事兼CEO。毎年、英語のサマースクール「サマーインジャパン」を大分市で開催している。今年で7回目の開催。世界各国から応募した7歳から18歳の生徒に対して、ハーバード大学等の学生が講師として、コンピュータプログラミング・演劇・スピーチ・英作文等を英語で指導している。これまでに6冊の著書と、1冊の翻訳本を出版されており、2014年には、第5回 経済産業省キャリア教育アワード奨励賞を受賞。

## 1. 目的

専門的な分野について英語で世界と渡り合えるグローバル人材の育成に向けて、海外大学のオンラインレッスンを受講することで、日常生活に必要な英語力だけでなく、専門的に扱う内容についても英語による発表やディスカッション等の技法・表現力を身につけることを目的とする。

## 2. スタンフォード大学遠隔講座について

### ◆対象生徒：以下の条件を満たす県内高校生30名

- ・令和元年度グローバルリーダ育成塾※に1回以上参加実績のある者
- ・実用英語検定準2級以上、又はそれと同等以上の英語力を有する者

※参加生徒(市内高校)：大分上野丘、大分豊府、大分雄城台、大分西、大分鶴崎高等学校

### ◆内容（使用言語は英語）

- (1) 事前学習：講義ビデオ視聴（オンデマンド）、テキスト阅读、課題提出、インターネット掲示板での意見交換等
- (2) 講座：ライブ授業「バーチャルクラス」におけるディスカッション
  - ・受講テーマは「世界の諸問題について（SDGs）」、「日米関係」、「シリコンバレーと起業家精神」等
  - ・参加者はコース終了時にレポートを提出又はプレゼンテーションを実施
  - ・修了者には大学から修了証書を授与（成績優秀者は大学が表彰）

### ◆日時：土曜午前10時～11時30分

10月～3月の6ヶ月で10回実施（月2回程度）

### ◆場所：参加者の自宅等（インターネットに接続できる環境）



【第1回講座の様子】

### ※グローバルリーダ育成塾

「世界と渡り合い、世界を変革する」グローバルリーダーを目指す大分県の高校生を対象とした年間4～5回のプログラム。世界で活躍する講師による講演や、高校生同士、更には留学生等を交えた協議・発表等により構成され、大分、日本、そして世界が抱える問題について、その解決策を模索する。

## 3. 開講式概要

### ◆日時：令和元年9月28日（土） 9時50分～12時30分

### ◆会場：サテライトキャンパスおおいた（J:COMホルトホール大分内）

### ◆第1回講座：①コース紹介 ②日米関係と歴史

【講師】**ゲイリー・ムカイ氏**※

スタンフォード大学国際多文化教育プログラムディレクター

### ※ゲイリー・ムカイ氏

1977年から3年間、群馬県太田市内の各学校での英語指導を経験。1981年に、スタンフォード大学国際発展教育の修士号を取得。アジア太平洋地域と日米関係に関する著書・論文多数。1997年には、アジアと日米関係に関する教材開発の功労者としてフランクリン・ブキャナン賞を受賞。2017年、日本政府から、日米の友好および相互理解の促進への貢献を称え、旭日双光章を授与。